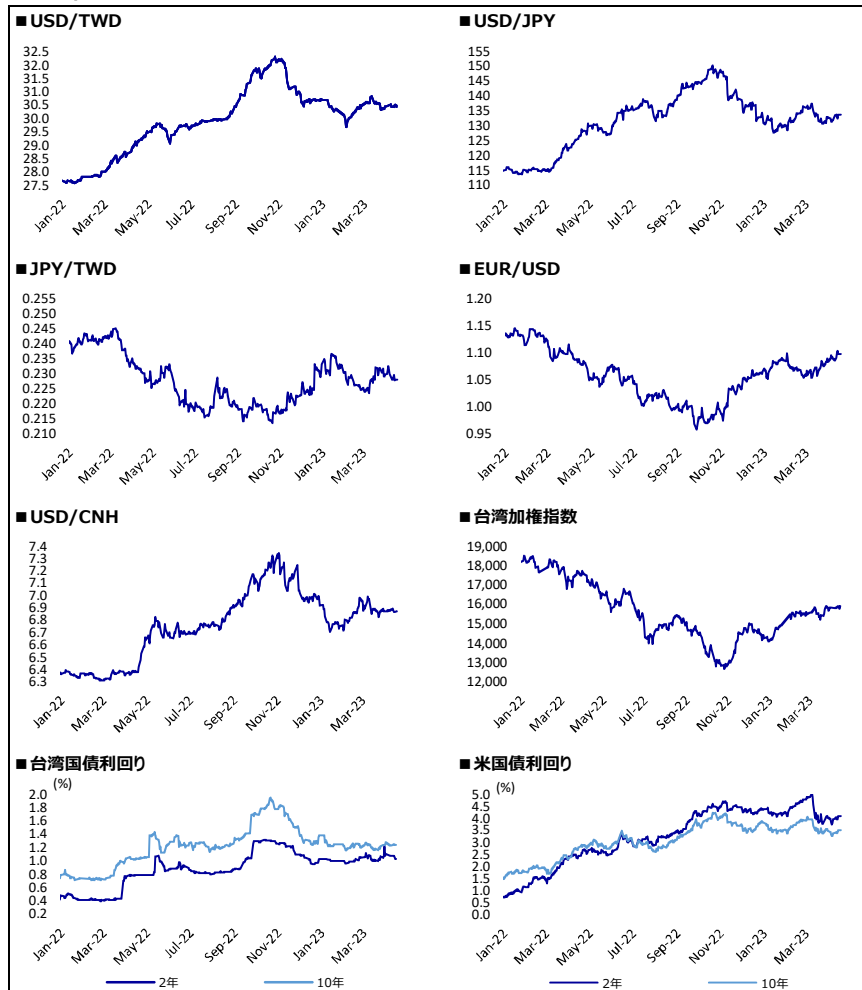


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初4/10は30.450でオープン。前週末の米雇用統計の影響を受けてドルが買われる場面もあったものの、レンジで推移。なお、中国の大規模演習が行われたが、相場への影響は限定的であった。4/11は翌日に米3月CPIの発表を控えている中、動意の乏しく30.47付近のレンジで推移。4/12は輸入企業のドル買いから上昇し、30.5台に乗せたが、この水準では輸出企業のドル売りも入り、揉み合う展開に。4/13は台湾株が売られると次第に台湾ドル売りが優勢となり、30.525まで上昇したが、一巡すると30.4台後半に戻した。4/14は外国人投資家の台湾ドル買いと輸出企業のドル売りからドル台湾ドルは下落。一時30.405まで下落したものの、一部の外国人投資家からドルが買い戻され、最終的には先週比0.1%ドル高台湾ドル安の30.465で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は50.6億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初4/10は132.12でオープン後、前週末の米雇用統計の影響を受けて132円台後半まで上昇。一巡すると132円台ちょうどまで下落する場面もあったが、米金利の上昇につられて133円台後半まで上昇。4/11は利益確定の売りや実需の買い等売り買いが交錯し、133円台で揉み合う展開に。4/12は日経平均が堅調に推移する中、一時134.04をつけたものの、その後は米CPIの発表を控え、133円台後半で推移。注目の米3月CPIは市場予想を下回り、米金利の動向とともに一時132円台後半に急落。ドル売り一巡後は133円台前半に戻した。4/13は133円台を挟んでレンジで推移していたが、米3月PPIが前日のCPIに続き市場予想を下回ると、132円台ちょうど近くまで急落。その後は米金利が反転するとドル円は132円台後半に戻した。4/14は米3月小売売上高が予想を下回り、ドル売りで反応し、一時132円台前半まで下落。しかし、コアの小売売上高は予想ほど悪化しておらず、米3月鉱工業生産も予想を上回ったこともあり、ドル買いが優勢に。また、4月ミシガン大消費者信頼感指数の1年先期待インフレ率が予想を上回ったことも材料としてドルが買われると、133円台後半まで上昇し、最終的に先週比1.2%ドル高円安の133.75で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.400-30.650
今週は、重要イベントが先週に経過しており、材料不足の中、レンジでの推移を見込む。また蔡総統の訪米に対して中国が大規模演習を行ったものの、相場へ影響は限定であったことから地政学リスクも意識されにくいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：132.00-134.80
今週は底堅く推移すると見込む。先週は強弱入り交じる米経済指標に対して売り買いが交錯したが、今週も米経済指標の発表を複数控えている。金融不安の高まる中で市場予想より悪くない内容が続いた場合は、来月の利上げが意識され、ドル円の底値は堅く推移するであろう。

今週の予定

4/17 (MON)	米2月ニューヨーク連銀製造業景気指数
4/18 (TUE)	米3月住宅着工件数・許可件数
4/19 (WED)	米ページブック
4/20 (THU)	台湾3月輸出受注、米4月フィラデルフィア連銀景況指数、米3月中古住宅販売件数
4/21 (FRI)	米4月製造業/サービス業PMI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。